

群発的地震活動を前震活動と仮定して行う本震の発生予測手法(6): これまでの取りまとめと今後の課題

#前田憲二*・弘瀬冬樹・溜瀧功史 (気象研) [*気象庁地震火山技術・調査課から兼任]

- まとめ**
- **前震活動に基づく予測モデルの成績 (最適化期間と通算期間) (図1)**
 - 対象領域や期間によって成績は変化する
予知率 (22~68%)、適中率 (5~28%)
 - 当初最適化したときの成績に比べ、通算では成績は下がった
 - **ETAS モデルによる予測結果との比較 (図2)**
 - 定常時空間 ETAS モデルを基にした予測より、前震活動に基づく予測の方が平均的に予測成績は良い
 - 地震による余震トリガー効果だけでは、前震活動の特徴を再現できない

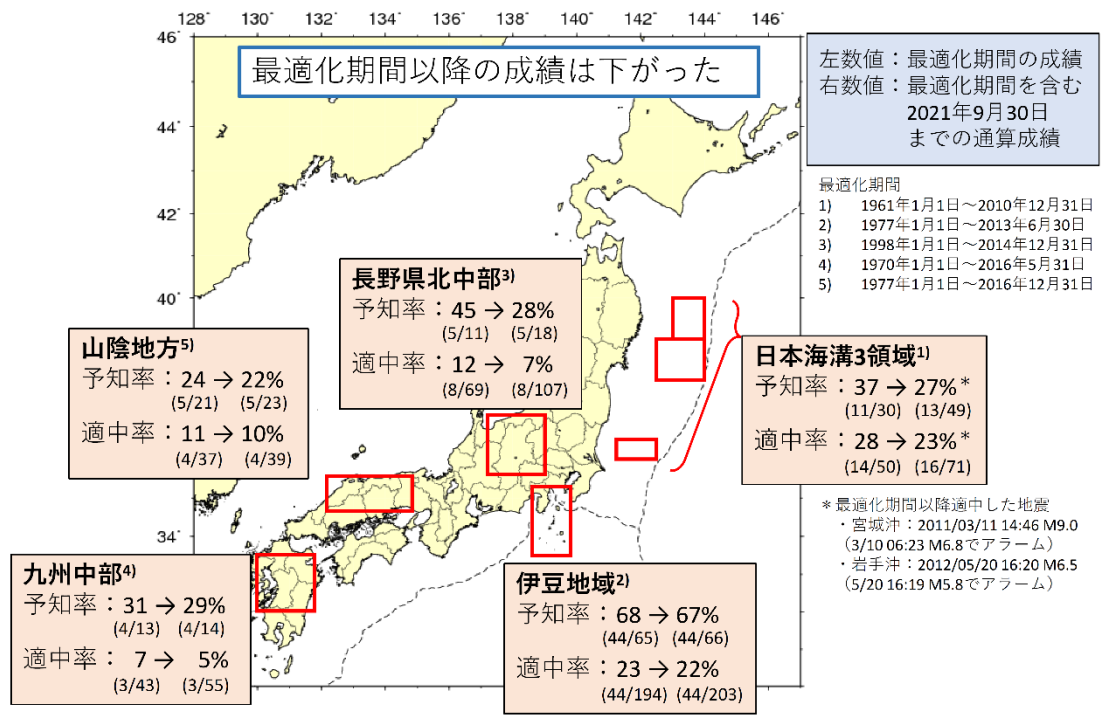


図1. 前震活動に基づく予測モデルの成績の変化

矢印左：最適パラメータ推定期間に対する成績、矢印右：2021年9月30日までの通算成績

